

誰にでも作れるようになります。

厚紙で作る安価な「手作り甲冑」制作のマニュアル

手作り甲冑のテキスト本：西川秀夫

**【用意するもの】**

- 1、 切る：厚紙、ハサミ、薄刃カッター、ボンド G17、マスキングテープ、棒（紙に型をつけるために伸ばす為）
- 2、 塗る：樹脂液+硬化剤（1：1で混ぜる）、アセトン、プライマー（スプレー缶・下塗り用）、ゴム手袋、容器（ビン・紙コップ）、フデ（3本ほど・樹脂塗用）、サンドペーパー（120～400）、ガラス布（補強用）、水スポンジ、
- 3、 仕上げ・塗る：カシュー（色は好みで）またはワシンの人工漆、フデ、コンパウンド、
- 4、 仕上げ・組立：平ひも（2～3種類）、丸ひも、房紐、鋏金具、布、針・糸
- 5、 仕上げ：鋏金具や前立て・脇立て（材料各種）などを付ける。

**【順序】**

- 1、 厚紙（全紙＝模造紙の大きさ1枚で150円）を部品などの型のとおり切っていきます。型はあらかじめ決めておきます。

型は兜、シコロ、肩袖、胴、クサズリ、脛、等々の部品に分かれます。・・・部品の型は各自で想定して作ります。

① 兜：甲冑図鑑などで、色々な兜があるので参考にして下さい。頭の大きさは少し大きめにして下さい。そのとき、円形にするのではなく卵型の輪っかにします。

② 胴：前胴と後胴に分けて作ります。初心の方は紐で両方を繋げるようにします。桶川胴のように蝶番で片方をつなぐ仕方もあります。鎌倉・室町時代の大鎧と戦国時代の当世具足によっても作り方が違いますが最初は、当世具足をお勧めします。一般的な甲冑です。

③ シコロ：兜の後ろを守るための部品です。通常は5枚を作ります。兜の形により4枚の場合や6枚の時もあります。上から順番に下にいくほど広く大きくしていきます。

④ 袖：両肩を守る部品です。片側で6枚同じ形を作ります。

⑤ クサズリ：前胴に3種類（中・大・中）、後胴に4種類（小を4個）を作ります。後で胴に紐で繋げるようにしますので、大きさを考えて作ってください。クサズリは通常1種類（1個）に4～5枚ずつです。上から下にいくほど大きくしてく

ださい。台形になるように作ってください。

以上が基本形ですが、兜に前立、脇立や面頬・頬当、籠手、脛当、ハイダテ、等々をつけたい方は、それらの部品も作ってください。

2、厚紙で型を作り、同じものを3～4枚作り、ボンド（G17が良い）で張り合わせます。

\*張り合わせた後、曲げる部品（シコロなど）は曲げて形を作っておいてください。固まってからでは、難しいです。

3、作った部品の全てを、樹脂化で固めます。ここがポイントです。

私は、次のモノを使いました。注意するのは、A液とB液を混ぜる時は、少しずつ出して行うようにします。すぐに固まるからです。塗るハケも固くなるので、溶剤系アセトン液につけながら使用してください。アセトンは薄め液としても使用します。匂いがしますので外で使用ください。室内ではシンナー中毒になりかねません。



\*たくさん塗り過ぎたら、キッチンペーパーでふき取ってください。液が手等についたら固まります。液を塗るとき等は、必ずゴム手袋をしてください。服につけば落ちません。

\*肩や胴には補強材にグラスウールを使うこともあります。樹脂液で塗り付けます。

4、樹脂化した各部品に、スプレー缶のプライマーを吹き付けます。

白か灰色がよいでしょう。次の段階の塗装を容易にするためです。

樹脂化した部分に斑があればサンドペーパー（布制が望ましい）で落としましょう。プライマーした後も、ムラができることがあります。

その時もサンドペーパーでこすって滑らかにしておきます。傷や段差・へこみなどはプライマーを使う前にパテで埋めておきましょう。

私はパテは「モリモリ120」を使いました。パテを使用した部分は滑らかにはなかなか難しいですが、次の人工漆で多少の修正は効き

ます。パテは完全に乾いてから、サンドペーパーを懸ける。

5、下塗り用プライマーで下地をして、そのあとはサンドペーパー（400番）で丁寧に磨きをかける。

6、カシューなどの人工漆を塗る前に、胴、草づり、肩そでなど、紐でつなぐ所には穴を先に空けておく。穴は気が遠くなるほど根気のいる単純仕事ですが、いい加減な穴だと、液を塗ったら目が埋まる場合もあり、紐を通すときに面倒です。

7、各部品をカシューなどの人工漆で塗っていく。うすめ液を使ってもよいが、薄め液を用いずに、直接、一度塗りでもよい。ただし往復で何回も塗るのではなく、たっぷりと浸けて一回（一筆）でかすれるまで塗る。色むらができたときは、一度、完全に乾かしてから、重ね塗りをする。塗料が乾かないうちに重ねぬりはしないこと。基本は3度塗りが良いと説明書きにありますが、手間を惜しむと、ムラができます。

8、完全に部品が乾いてから、コンパウンド（研磨剤）を布で各部品を磨く。

9、部品によっては、金具や、布をつけるものがあるので、針と糸を用意しておく。・・・袖、腕などに着ける。

10、肩そで、草づり、などの部品に紐を通していく。

XXXXXXXX、//////////,の紐の通し方があるが、そこは想像力です。平紐は部品のつなぎにし、丸紐は、胴などのつなぎ紐とする。紐を通す穴は、千枚どうし・錐などで再度、確実に開けておく。プライマーや人工漆で詰まっている場合がある。紐の先にセロハンテープを巻いて先を尖らせて穴に通していく。

11、部品を組み立て、最後の仕上げに、前立てを付けたり、胴・兜に飾りとして、鋳などを付ける。

12、木枠で、甲冑を飾る土台を作り、装着する。

以上